



みなさんには結婚式は和式でしたい、という希望はありますか？私はある民謡を知ってから、和式の結婚式に憧れるようになりました。その民謡との出会いは私の習い事の三味線です。私は出身地の福岡と京都で数年三味線を習っているのですが、京都の先生に初めて習ったのが宮崎県の民謡「シャンシャン馬道中唄」という唄で、三月に結び神で有名な鶴戸神宮に美しく飾った馬に花嫁を乗せ、花婿が手綱を取りながら七浦七峠を越えてお詣りする昔の風習が唄われています。最近では、この風習が年に一度、観光行事として再現されて大変人気になっているそうです。このように伝統的なものを観光と結びつけて再現するものは多くあると思います。この流れの中に着物も置かれており、着物で京都を観光する人をよく見かけます。さらに、着物のお堅い印象を拭うような今風な着物を扱うお店も数多くあります。若い人に受け入れられやすいようにと、小物にも工夫がこらされるようになってきました。そして、もっと着物を気軽に楽しもうという動きがあります。しかし、私は着物の堅さも大切にすべきだという動きも必要だと思います。どんなに気軽にとっても、着物は時や場所を選ぶものです。また、着物を着ているときには行動も選ばなければならないはずです。そこには日本固有の「美德」（精神）があると思います。それは非常に重要なものであり、昨年注目された「おもてなし」もその一つだと考えられます。この美德がまさに世界中に注目されました。この美德は世界に誇れるものだと思います。着物はもう一度日本文化を見直すきっかけ



けになり、使い捨て商品の溢れる日常、何事も簡略化する、目先の効率の良さを追求する流れを見直させてくれる可能性があると思います。



いまいずみ よしみ（国際教養学科3年次生）